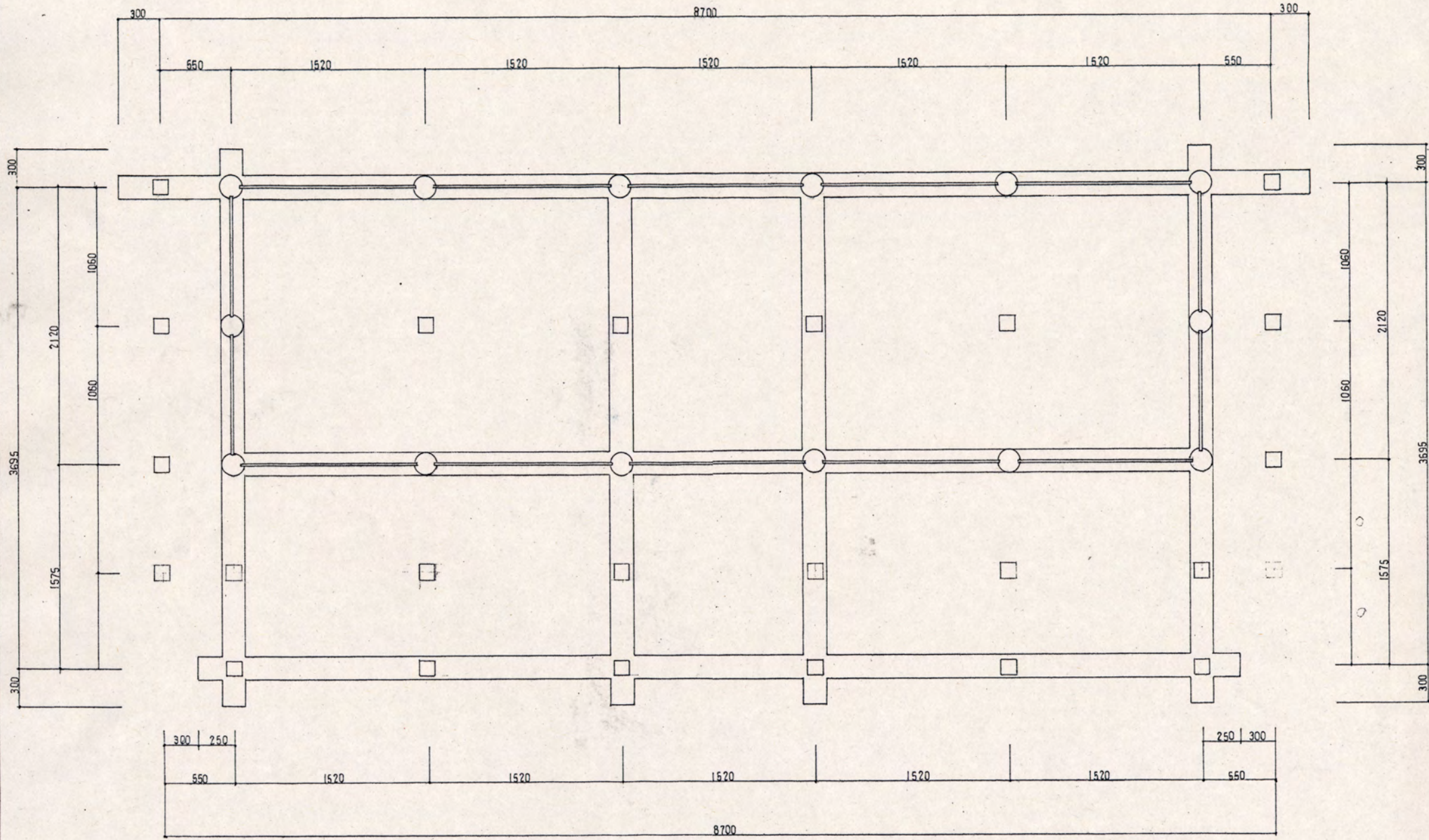
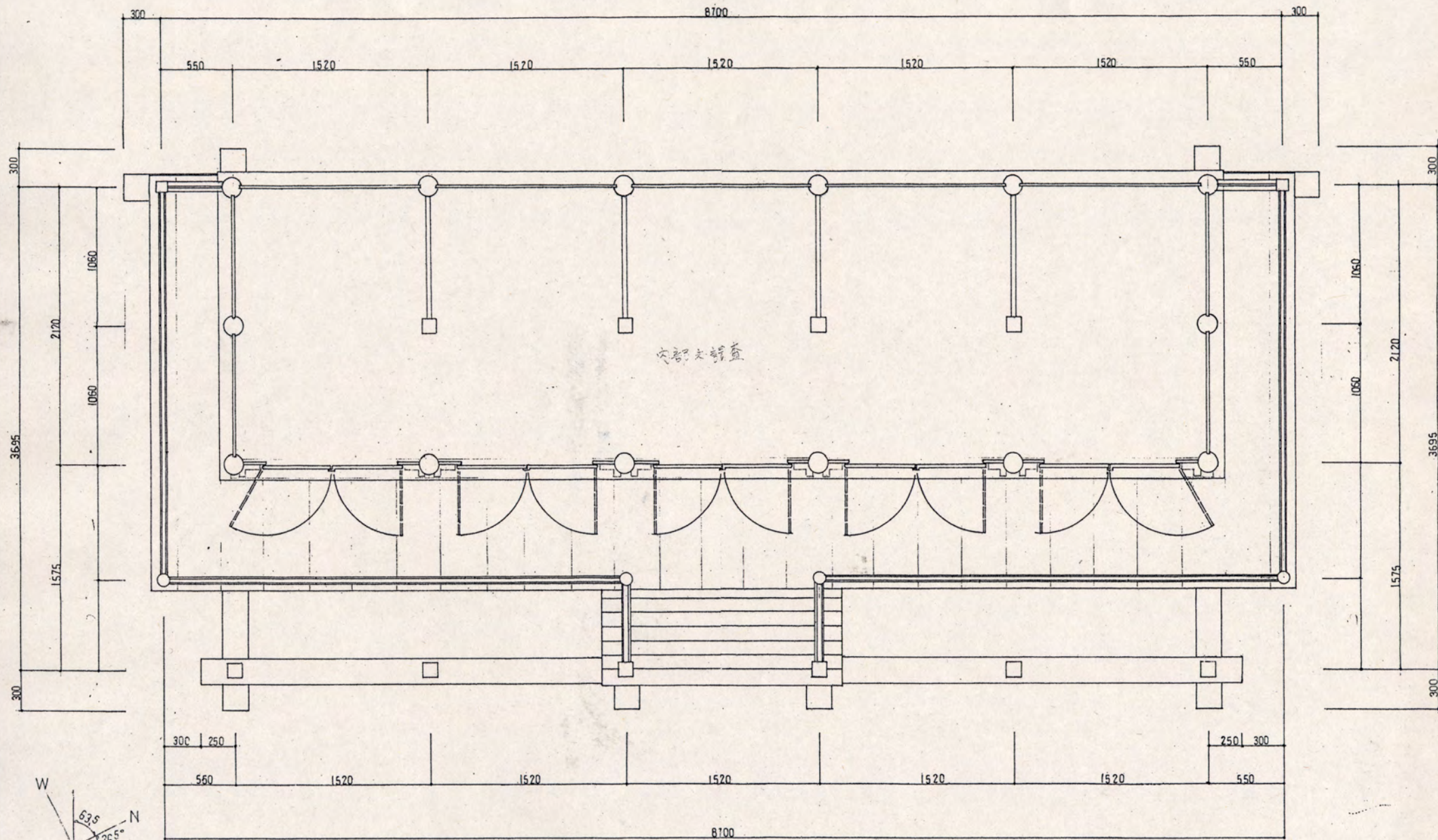


五社神社本殿建造物調査報告書

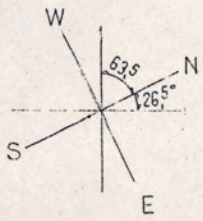
1. 所在 宮代町字東 90
2. 構造・大きさ
 - 屋根 五間社流造り、銅板葺（元は茅葺）
 - 正面 7,450 cm
 - 側面 185 cm
3. 概要 元五社神社は旧西光院の境内に所在する。明治初年の神仏分離以前は西光院が別当寺であり、東神外から西神外に至る広大な百間山光福寺西光院を構成する一社であった。五社神社は、「西光院勸進帳」によると奈良時代の養老年間や天平年間に建立されたという。しかし、現在確認できる確実な時代は、本殿の様式から推定できる室町時代後期から安土桃山時代である。なお、五社神社と阿弥陀堂との間に明治初期まで所在した雷電宮には天文22年（1553）銘の鰐口が所在した。埼玉県唯一の五間社流造。埼玉県指定有形文化財。
4. 建築年代 本殿の様式から室町時代後期から安土桃山時代と推定されるが、墓股は江戸中期のものである。
5. 内容 平成22年度に宮代町郷土資料館が実施したものである。併せて、埼玉県の委託で行われた平成13年3月29日に行われた文化財工学研究所の調査も掲載する。
6. 調査者 平成22年度 宮代町郷土資料館 青木秀雄、北川瑩
平成12年度 調査 文化財工学研究所 立会人 宮代町教育委員会 河井伸一
7. その他 埼玉県が県指定文化財の調査として文化財工学研究所に依頼し作成した県指定文化財現況調査報告書も添付した。



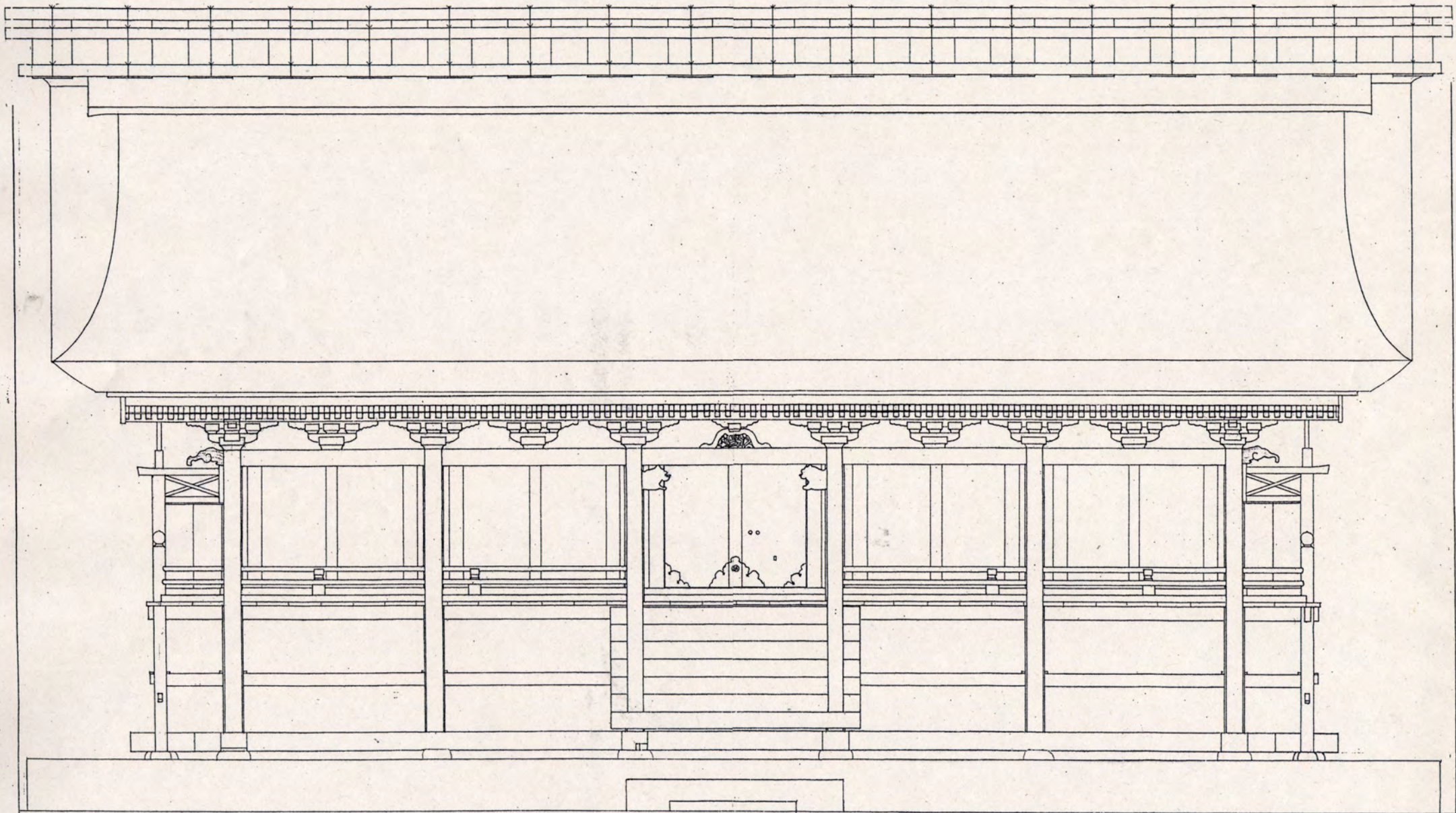
現場名	五社神社本殿	基礎伏		NO 1
		縮尺	1/40	



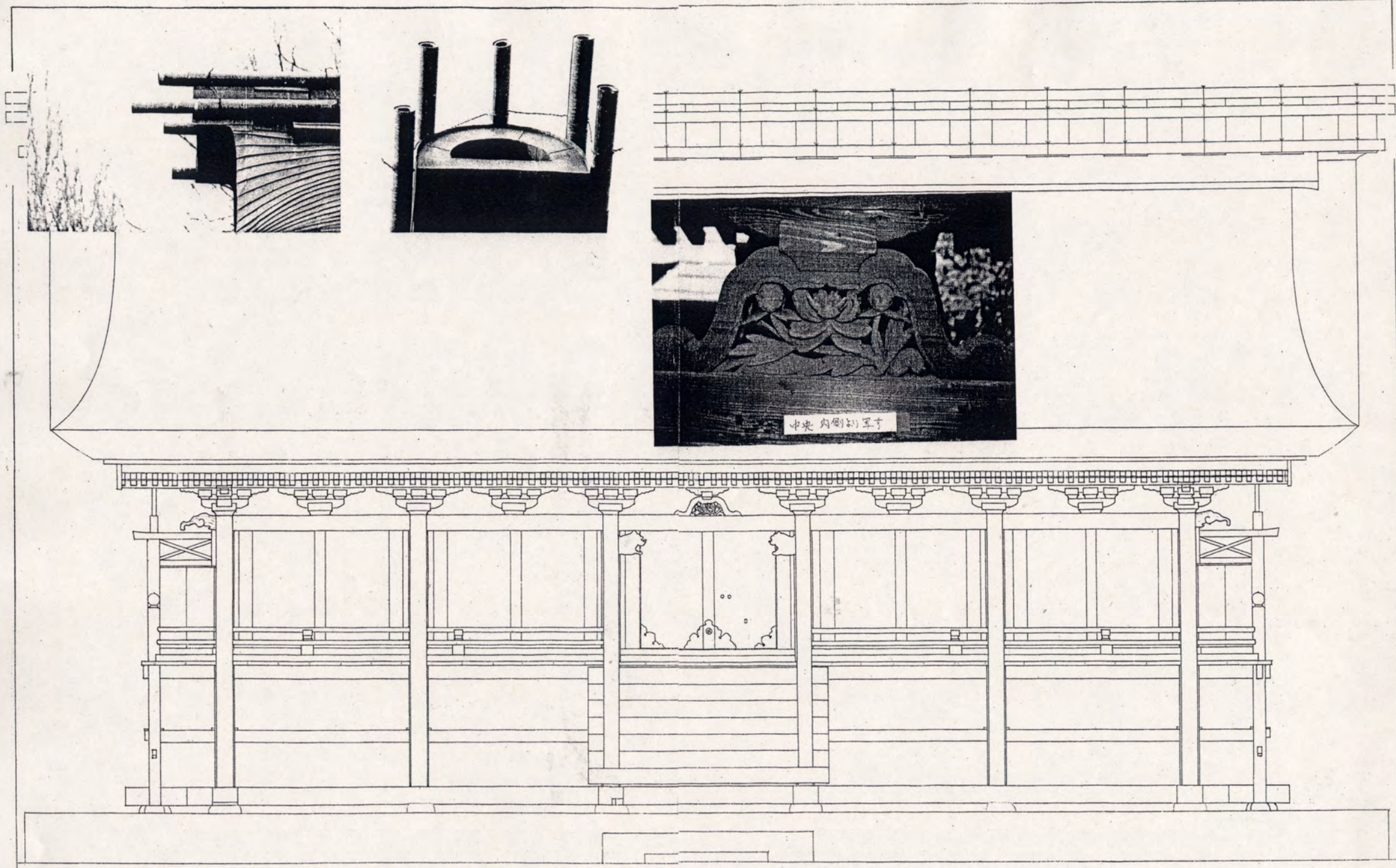
五社神社本殿



現場名	五社神社本殿	平面図			N02
	縮尺	1/40			

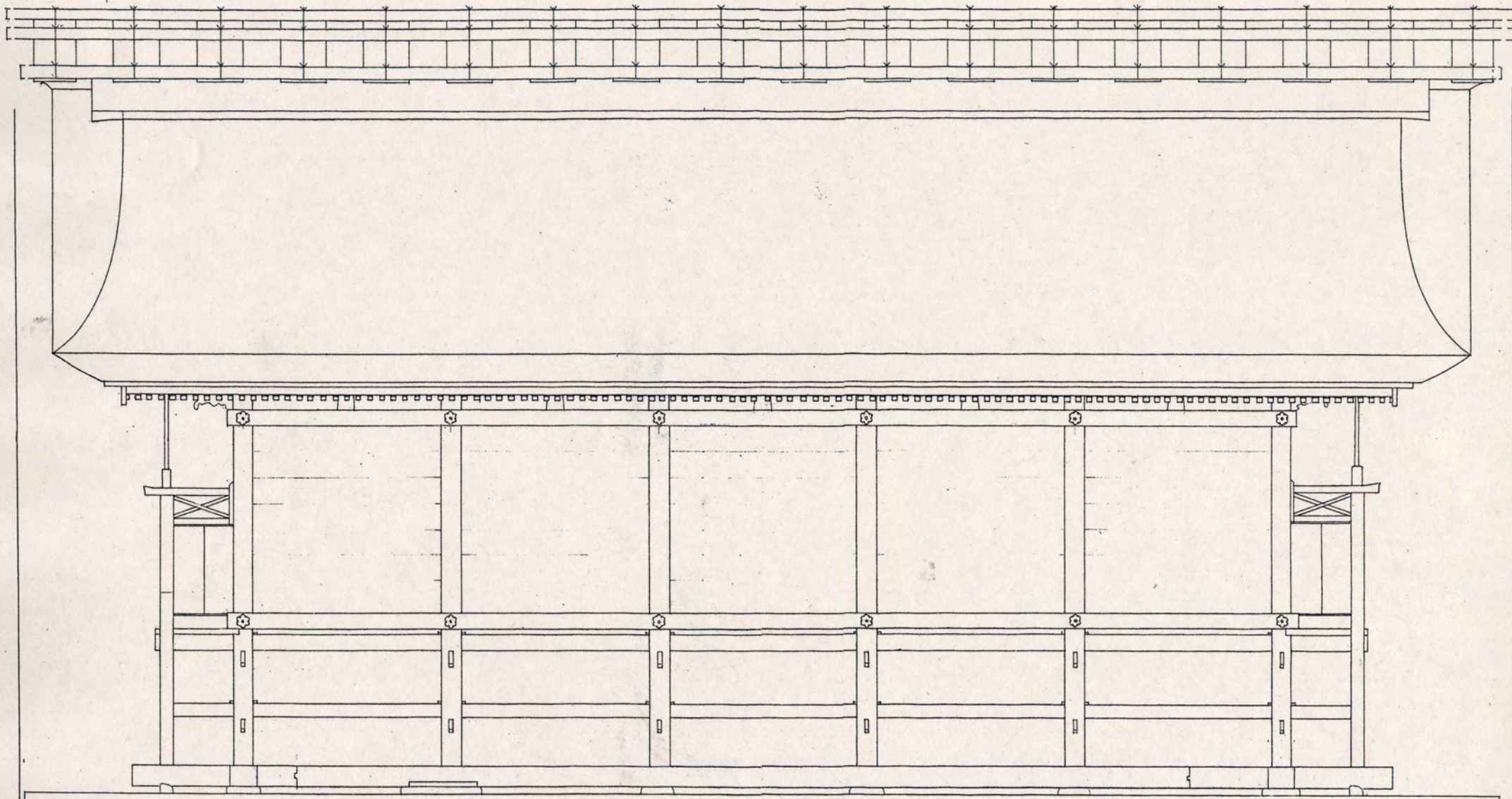


現場名	五社神社本殿				N03
	縮尺	1/40			

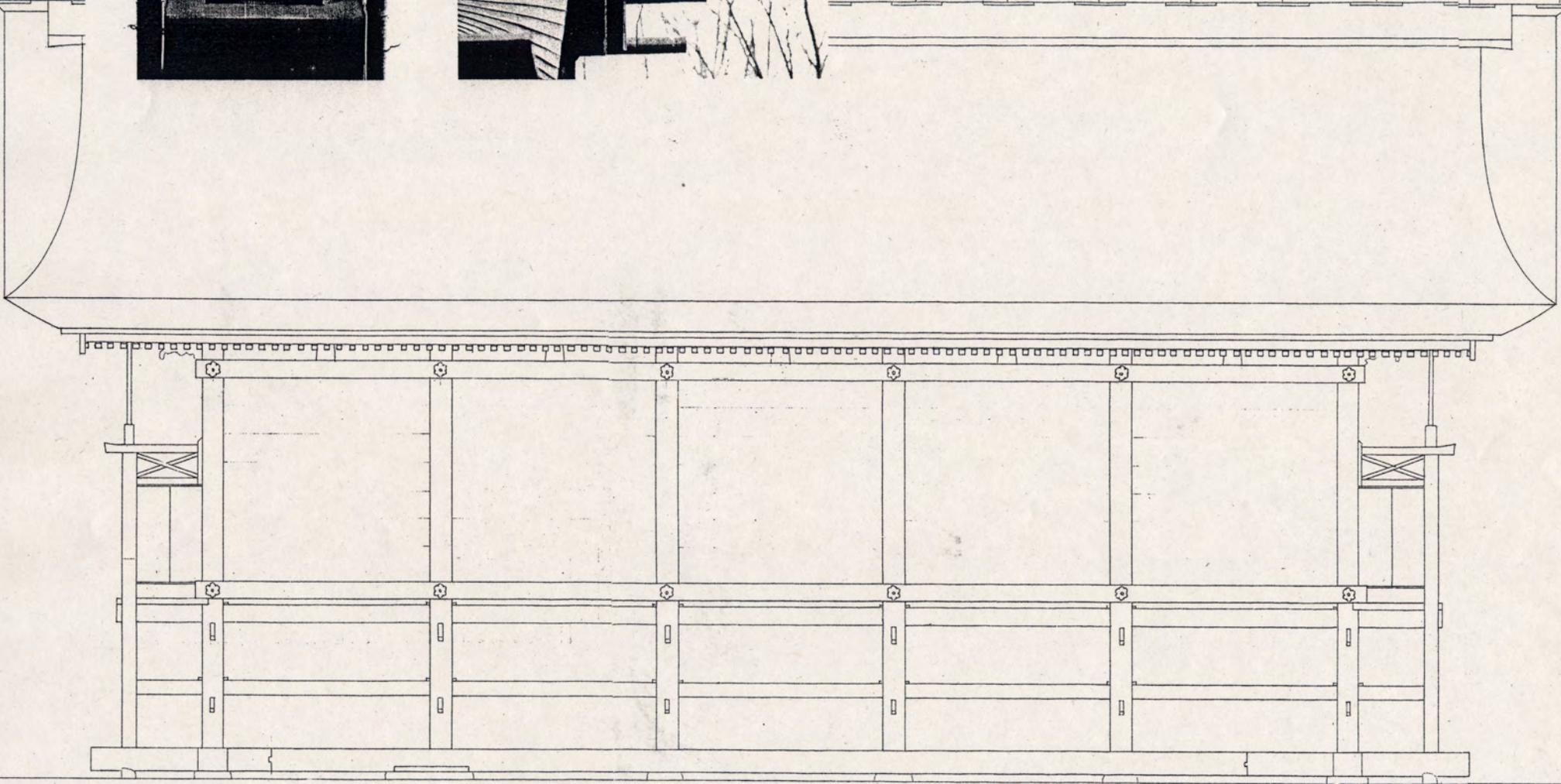
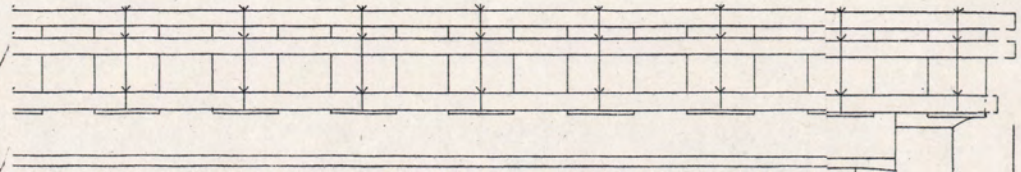
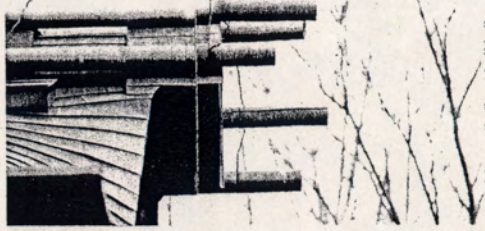
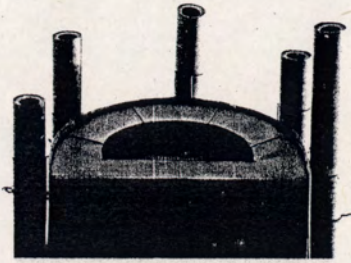


中央内側割室寸

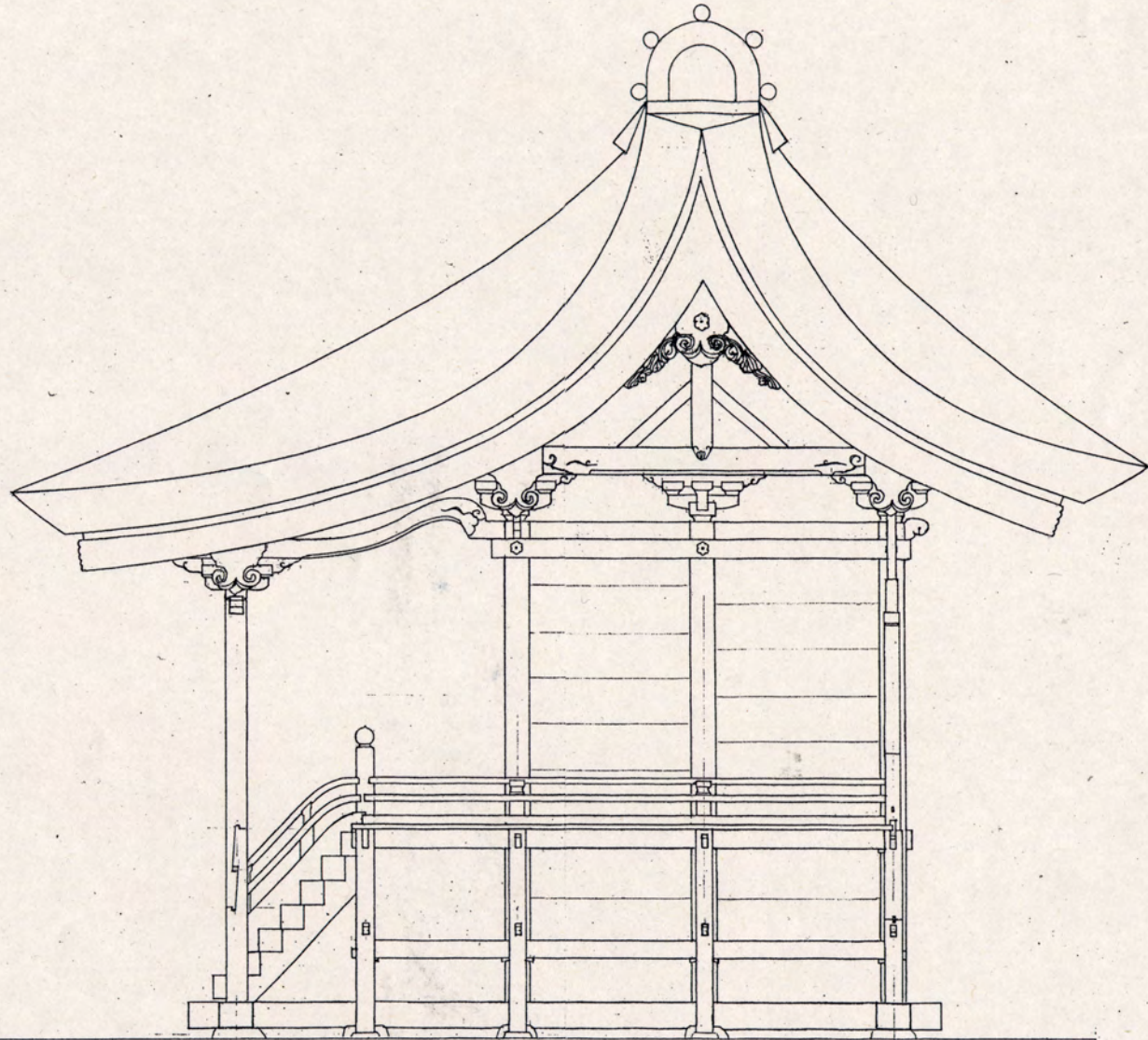
現場名	五社神社本殿				NO3
		縮尺	1/40		



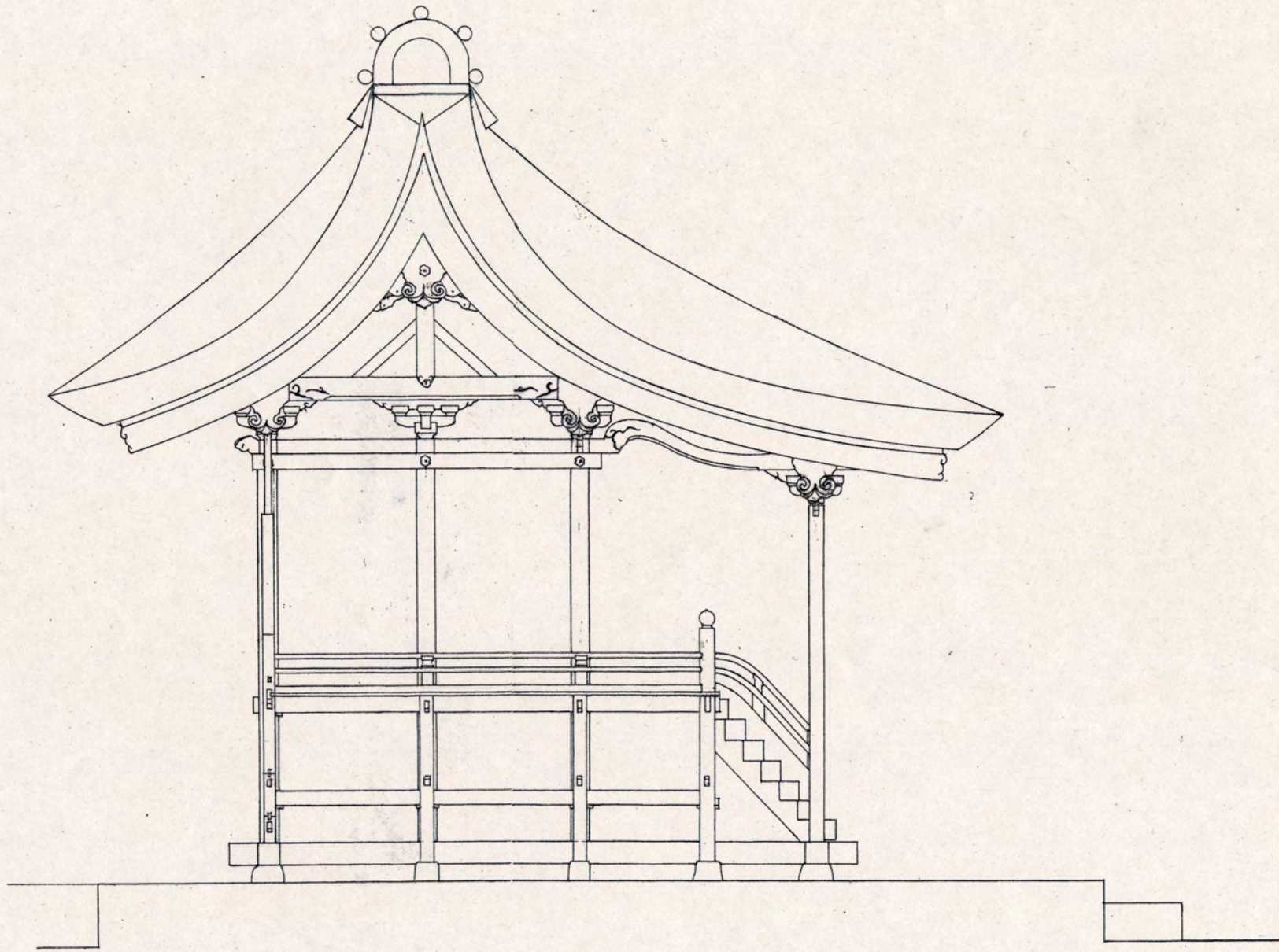
現場名	五社神社本殿			NC4
	縮尺	1/40		



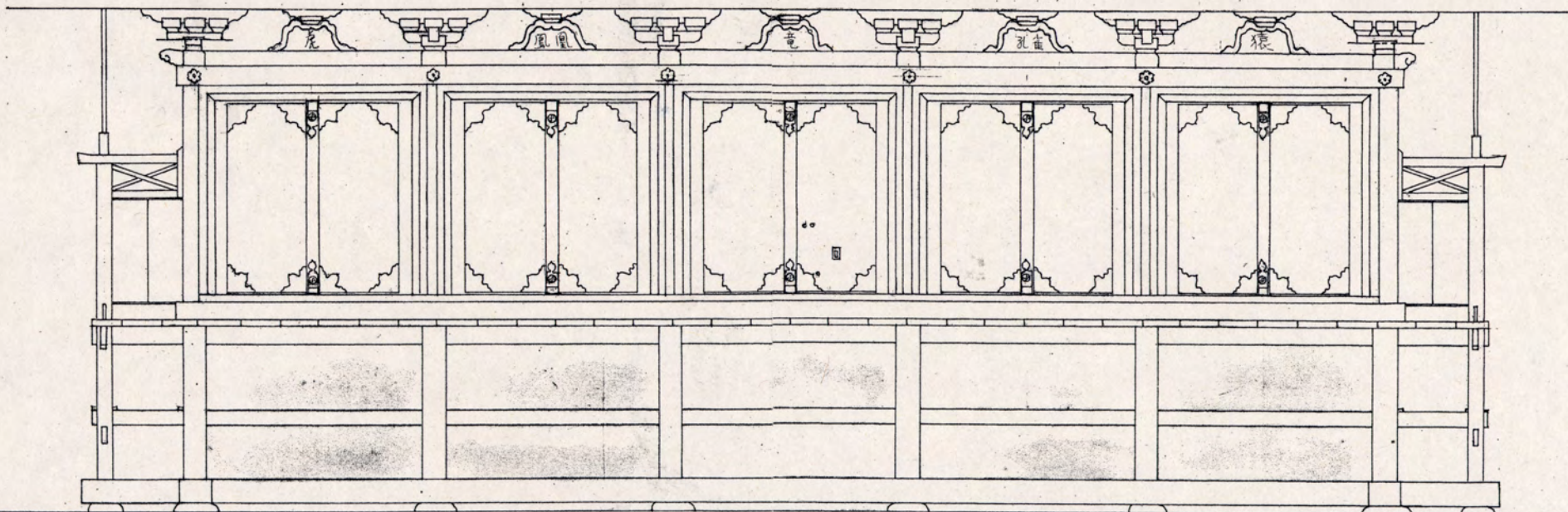
現場名	五社神社本殿			NC 4
		縮尺	1/40	



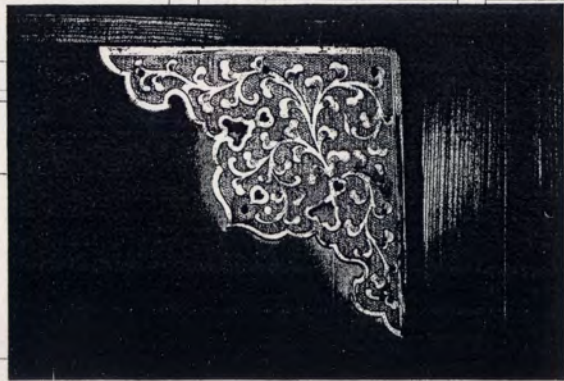
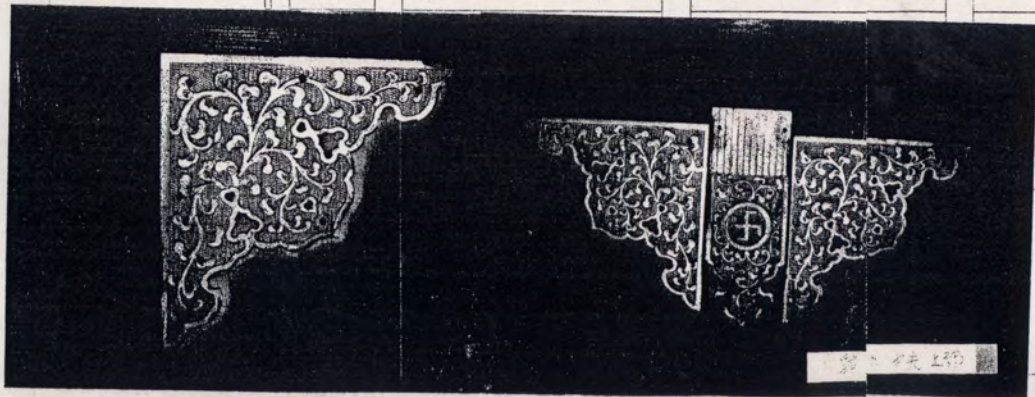
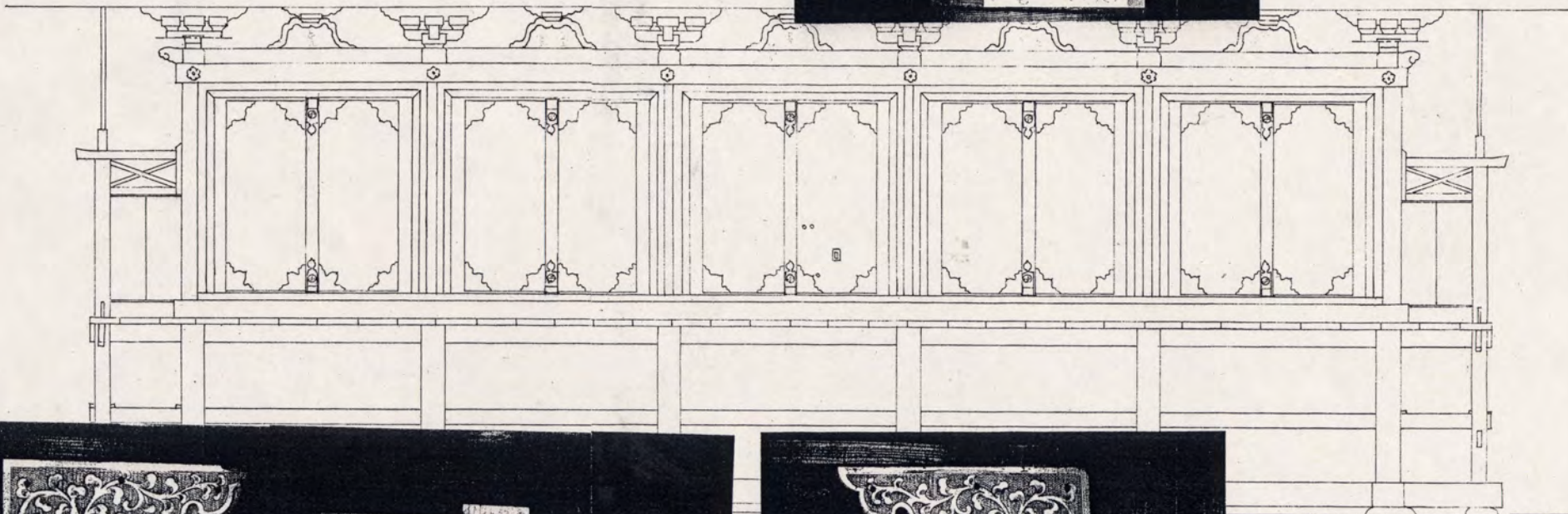
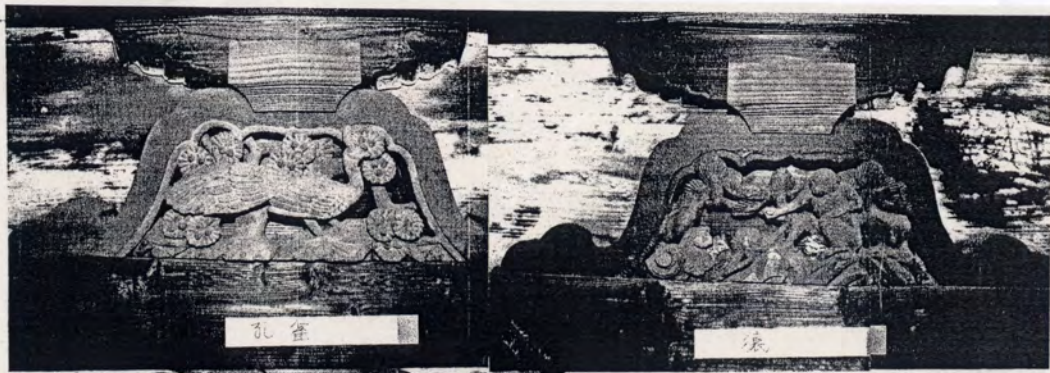
現場名	五社神社本殿			N05
	縮尺	1/40		



現場名	五社神社本殿			N06
		縮尺	1/40	



現場名	五社神社本殿					N07
		縮尺				



指 定 番 号	14
地 区 番 号	785

報 告 年 月 日	平成13年3月29日
調 査 者	文化財工学研究所
教育委員会担当者	河井 伸一

■名称・位置等

名 称	ごしゃじんじやほんでん 五社神社本殿		員 数
			一 棟
所 在 地	南埼玉郡宮代町東90		
最寄駅・交通機関	東武伊勢崎線姫宮駅下車徒歩15分		
所 有 者	氏 名	(宗) 五社神社 代表役員 木村雄一	
	住 所	南埼玉郡宮代町東90	
管 理 者	氏 名	同 上	
	住 所	同 上	

■文化財の指定

指 定 年 月 日	昭和38年3月29日
指 定 の 経 緯	江戸前期。五間社流造、銅板葺(元茅葺)、向拝付。墓股秀作。県内唯一の五間社。

■管理状況

昭和49年に解体修理が行われており、管理状態は比較的良好である。道路を挟んで隣接する西光院(別当寺)前のT字路に木製柱の案内票があるが灌木に隠れて見えにくい。兼務社であり普段は無人。隣家の渡辺氏が鍵を預かっている。

■指標の有無

囲 柵	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	透塀。
標 識	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	説明板が兼ねる。
説 明 板	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	擬木製。金属製。
指 定 地 境 界 票	<input type="radio"/> 有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
案 内 票	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	木製柱、灌木に隠れてよく見えにくい。

■防災対応状況

防 災 に つ い て	昭和51年に火災報知設備、及び避雷設備設置、平成8年に火災報知設備交換。平成元年に消火設備(消火栓及びホース)設置。境内に消火器設置。火災報知設備の警報機は神社の鍵を預かる隣家(渡辺家)にも設置。
耐 震 に つ い て	破損している向拝北側繫虹梁の状態を確認したい。

■現状破損状況

向拝北側繫虹梁が身舎取り付き側で破損し、鏝で応急処置がなされている。また内部で巻斗の破損1ヶ所あり。

■緊急修理の必要性

破損している向拝北側繫虹梁の状態を確認したい。

■その他、文化財指定物件として維持保存管理上問題と思われる事項。

階下に旧御扉等、解体修理時の古材が置かれているが、拝殿内等へ格納しておきたい。案内票が分かりにくい立地にあるため、数を増やしたい。

■文化財の概要

建 立 年 代	室町時代後期～桃山時代
施工者(大工)等	不明
後 世 の 改 変	江戸時代に墓股の付加が行われている。彩色も後補であろう。大正14年頃に屋根が茅葺からトタン葺に変わり、現在は銅板葺に整備されている。

宗 派・旧 社 格 等	村社
本 尊・祭 神	天之忍穗耳命他七柱だが、古来、熊野三社・山王・白山の五柱といわれる
創 立・沿 革	創立は不明だが、社伝によれば養老年間(717~723)とされる。

■構造形式

概 要	五間社流造、銅板葺、東面。
基 壇・基 礎	基壇:モルタル仕上。基礎:自然石玉石。
軸 部	丸柱。土台、足固貫、腰貫、頭貫、切目長押、内法長押。
組 物・中 備	平三斗。中備墓股(正面)、中備間斗束(背面)。
軒	三軒繁垂木(正面)、二軒繁垂木(背面)、木負、茅負、裏甲。
妻 飾	虹梁、大瓶束、三斗組を介し棟木を支承。
縁・高 欄	三方切目縁、擬宝珠高欄、階、脇障子。
向 押	角柱(面取)。土台、頭貫、平三斗、中備平三斗、妻虹梁(海老虹梁)、向押桁。
床	拭板敷。
天 井	竿縁天井。
須弥壇・厨子等	棚。
彫 刻 等	頭貫木鼻、向押中央間獅子鼻、虹梁、墓股、実肘木、拳鼻。
柱 間 装 置	正面:幣軸構、板唐戸。背面・側面:阿追羽目。内部間仕切:正面側一間は開放、背面側一間は縦羽目板張。
塗 装・彩 色	小壁、組物の一部に胡粉等の彩色痕跡あり。
材 質	スギ主体。

■所見・評価等

珍しい五間社流造の形式を有する。木柄の細い簡素な軸部、及び垂木の強い居定(曲がり)は古様を示しており、細部様式から判断して室町時代後期～桃山時代頃の建立と推定される。但し身舎正面及び向押中央間の墓股は様式的に時代が降り、材も他の部材に比して新しく、後補と考えられる。当初は背面にみられるのと同じ鉢束による間斗束の形式であったものと推測される(墓股の上の斗と実肘木は当初材であり、鉢束のみを墓股と入れ替えたのであろう)。

■修理、報告書の有無

修 理 等	報 告 書 の 有 無	
昭和49年 解体修理	県 指 定 文 化 財 調 査 報 告 書	4 集
	近 世 社 寺 調 査 報 告 書	有
	修 理 工 事 報 告 書	無

■備考

元禄十四年(1701)銘の鏡が五面伝わり、御神体として各社に祀られている。内部にはそれぞれ阿弥陀如来、釈迦如来、毘沙門天、千手観音、不動明王の立像が納められている。



正側面(南東より)



正面(南東より)



側面(北より)



背側面(南西より)



向拝(南より)



内部(五社が間仕切で仕切られている:南より)



側面縁廻(南西より)



身舎床下(北西より)



水引虹梁木鼻(当初)



身舎墓股(後補)



地垂木の強い居定(曲がり)は古様を示す



向拝海老虹梁の破損(鏝による応急処置)



鳥居より拝殿を見る(東より)



拝殿(手前)及び本殿(奥)正側面(北東より)



消火栓・ホース・説明板(標識を兼ねる)



案内票(灌木に隠れて見えにくい)